

# 震災・内外災害対策ニュース

発行：日本キリスト教会人権委員会  
発行日：2016年5月8日

## 熊本地震被災地訪問報告

### はじめに

4月14日(木)と16日(土)の熊本地震災害の知らせを受け、大会人権委員会は九州中会や大会常置委員会と連絡を取り合い、遅ればせながら4月26日(火)～28日(木)の日程で、中家盾委員、小野寺ほさな委員の二人を熊本に派遣した。以下は、その二人の委員による報告である。

### 事前に訪問することを予定した場所

1. 益城町総合体育館
  2. 熊本東聖書キリスト教会(益城町)、木山キリスト教会(益城町)
  3. 在日大韓基督教会熊本教会
  4. 熊本YMCA災害対策本部(於:熊本YMCA[中央YMCA])
  5. コムスタカ(於:熊本市国際交流会館)
  6. 九州キリスト災害支援センター  
(於:災害対策事務局→日本イエス・キリスト教団福岡教会油山シャロームチャペル[福岡]  
災害対策本部→熊本ハーベストチャーチ[熊本])
  7. 日本キリスト教会九州中会(於:福岡城南教会)
- ※先方と連絡がついたとしても、実際には訪問が許されるかどうか未定の状況で出発した。

### 実際の訪問報告

福岡から熊本に向かう新幹線は、1時間に1本と間引きされ、所要時間も通常の倍の1時間20分を要するということもあり、ホームには人があふれかえっており、立っての乗車となった。また、熊本に着いてからも、熊本市内の路面電車やバスはいつ来るか分からないほどに少なく、タクシーも予約でいっぱいであり、幾つかの橋が通行止めになっているということも相まって、どの道も渋滞しており、予定した訪問先を全部回りきれぬかはかなり怪しかった。しかも、訪問した日の天気は大雨の予想で、途方に暮れる思いであった。

ところが、たまたま新幹線で乗り合わせた方が南阿蘇の被災者の方であり、今回の熊本地震の様子を詳しく教えてくれ、その日に会ったばかりの私たちをわざわざ益城町総合体育館近くまで連れて行ってくれる恵みに与ったのである。

また、益城町総合体育館を見て回っている内に、二つ目の驚くべき恵みを与えられた。それは、益城町総合体育館の後に訪問しようと予定してはいたものの、いまだ連絡をつけることができないでいた在日大韓基督教会熊本教会の金聖孝(キム ソンヒョ)牧師と、益城町総合体育館の階段で偶然ばったり会うことができるという恵みである。金聖孝牧師は、移動手段もアポイントを持っていない私たちを木山キリスト教会、在日大韓基督教会熊本教会、熊本YMCA災害対策本部、

熊本市国際交流会館へと案内してくれた。全ては金聖孝牧師と同行していた鄭守煥(チョン スファン)牧師(在日大韓基督教会社会委員会委員長)と金成元(キム ソンウォン)さん(社会委員会会計/在日韓国基督教会館(KCC)館長)の手引きあつてのことであり、これまで長きにわたって日本キリスト教会と関係をつなぐてくださった在日大韓基督教会と外キ協によるものであると深く感謝した次第である。

最後に九州キリスト災害支援センターが実際のボランティア活動を行っている災害対策本部(熊本ハーベストチャーチ)を訪ね、予定した場所をほぼ回ることができた。

以下は、その訪問先についての報告である。

## 1. 益城町総合体育館

この体育館の建物の管理・運営は、昨年 2 月、益城町役場から熊本YMCAに委託されていた。そのようなこともあり、4 月 14 日(木)午後 9 時 26 分の最初の地震の数時間後には、役場に避難した人たちが次々この体育館に移動し、緊急避難所として使用されることになった。停電はしたものの、幸い非常灯が使えたので、武道館(畳敷き)や他にも畳敷きの部屋に被災者を受け入れ、寒いという人にはYMCAのTシャツを提供した。メインアリーナは、天上が落下したため避難者の受け入れはかなわなかったが、その後も被災者が続々と避難して来、翌 4 月 15 日(金)午前 2 時頃には 150 人ほどになった。

4 月16日(土)午前 1 時 25 分の地震(本震)の後には、熊本市内からも被災者が避難して来たため、現在では駐車場での車中泊の人々も含め、全体で 1,200 人が生活している。競技場にはペット同伴被災者の受け入れ場所、そしてテントも張られるようになった。今後、現在避難所となっている学校が開校することになれば、そこに避難していた人たちが移って来る可能性もあるとのこと。まだ上下水道が復旧していない状況なので、自衛隊が主体になって食事が作られているということであった。

訪問してまず目にとまったのは、足元の歩道の石がガタガタに崩れていること。玄関に向かう道路がひび割れ波打っていること。そして、食事を求める人たちの行列。それから、入口には医療関係者(医師会、薬剤師会)が常駐している様子で、健康面・体調面の管理がなされていることが分かった。血圧計なども置いてあり、歯科検診相談窓口もあった。

中に入ると支援物資として送られてきた衣類の箱が蓋を開けられたまま解放され、必要な物を選んで取り出せるようになっていた。飲料水などもテーブルに置かれており、いつでも利用できる。2 階には子どもたちの遊び場も用意されていた。

ボランティアに関してはYMCA職員が社会福祉協議会の人たちと一緒に活動しているとのこと。ただし、自衛隊は県から、社会福祉協議会は市町村長行政から派遣されて来るが、熊本YMCAの職員は全国から派遣されてきた他のYMCAの職員に助けられながら、災害時の緊急奉仕ということで普段の業務を振替、職員自身も被災者でありながらボランティアとして、具体的には他の被災者たちの協力を得ながら、寂しそうにしている高齢者に声を掛けたり、個別のニーズを共有できる情報版を作ったりして活動している。

## 2. 熊本東聖書キリスト教会(益城町)、木山キリスト教会(益城町)

最も大きな被害は、益城町や南阿蘇村に集中しており、益城町総合体育館から 500 m くらいの所にある熊本東聖書キリスト教会は 2 階建ての建物の 1 階部分が潰れ、周辺一帯は近づくこともままならない状態にあるということであった。一方、益城町総合体育館から 3.5 km くらいの所にある木山キリスト教会は、外見上は何も被害はないように見受けられた。同じ益城町でも随分な違いがあるものである。現在は、地域へ支援物資を配ったりしているとのことである。

### 3. 在日大韓基督教会熊本教会

被災し、黄紙(要注意)が貼られていた。そのような中で、金聖孝牧師が熊本の刑務所で教誨師をしておられるということもあり、震災後すぐに「オリーブの家」(熊本保護観察所からの委託による「緊急的住居確保・自立支援対策における登録事業」)の理事長からの連絡と要請を受け、現在 13 名の被災者を受け入れ、会堂1階のホールを避難所として提供するということが行われていた。2 階礼拝堂での主の日の礼拝には彼らも出席するとのこと。

礼拝堂の窓ガラスにはひびが入り、壁の高いところに置いてあったスピーカーは床に落ちたままの状態。最初の地震で落ちたので、すぐに片づけ元に戻したものの、余震が続き、本震が来てまた落下。金聖孝牧師は「もう元に戻す気力もなくなった」と言っておられた。

「オリーブの会」登録者 13 人の避難所としての熊本教会の働きは、暫く継続されるようで、在日大韓基督教会は、これから「熊本地震災害対策プロジェクト」を立ち上げ、熊本教会を支援することを含め、地域への支援活動に向こう 1 年間にわたって行っていくことを考えているとのことを鄭守煥牧師と金成元さんから伺った。

### 4. 熊本YMCA災害対策本部（於：熊本YMCA [中央YMCA]）

最初の地震の夜から益城町総合体育館で被災者を受け入れる活動をしながら、当初以上に現在、また今後はますます避難所で生活する被災者はもちろん支援するスタッフにもメンタルケアの必要性を感じているとのこと。

スタッフ自身、被災しながら避難所で支援活動を行っている。彼らYMCA職員の人件費は、熊本YMCAに対する日本内外のYMCA初めとする諸教会・団体の募金の中から支払うことになるが、連休明けまでは全職員が災害対策支援活動に集中することになっている。

メンタルケアとして、既に熊本YMCAが独自で始めているのはコーヒーなどを提供し、被災者の声に耳を傾ける「スター・ボックス・カフェ」。毎日午前 10 時～ 11 時 30 分と午後 2 時～ 4 時の 2 回開店。被災者たちからは「暖かいコーヒーが飲める」と好評とのこと。

そのような被災者傾聴ボランティアを九州臨床宗教者会(九州全体で 18 名、熊本で 8 名所属。浄土真宗本願寺系僧侶、キリスト教会牧師などがメンバー)に協力要請をしたとのこと。ちょうどこの日、その打合せの会合があり、陪席させていただいた。在日大韓基督教会熊本教会の金聖孝牧師は、東北ヘルプでの集中研修を受け、実際、臨床宗教者の一人として活動しておられる。

今後、熊本臨床宗教者会としては、現在始められている「スター・ボックス・カフェ」を参考にしながら、具体的にどのように展開できるかを考えようということになった。

このような傾聴ボランティアが近いうちに開始されることが期待される。

### 5. コムスタカ（於：熊本市国際交流会館）

コムスタカは、1985 年、手取カトリック教会(熊本市)を活動の拠点に、アジアから日本に働きに来ている女性の相談や支援を行う「滞日アジア女性問題を考える会」として発足した NGO を前身とする団体である。1993 年に名称を「コムスタカ(フィリピン語でお元気ですかの意)外国人と共に生きる会」に改称し、現在ではフィリピンからの出稼ぎ女性たちをはじめ、中国、ペルー、タイ、パキスタンなど数多くの外国籍住民と共に歩んでいる。月 1 回の会議に出席するメンバーは 10 名ほどである。

熊本市内にも大きな被害をもたらすこととなった 4 月 16 日(土)の本震以降、少しずつ熊本市国際交流会館に外国籍の方々が避難してくるようになり、私たちが熊本市国際交流会館を訪れた 4 月 27 日(水)にも 30 人ほどが寝泊まりをしていた。ここに至るまで、コムスタカのメンバーと、被災した外国籍住民の方々とで、毎日のように炊き出しを行ってきたとのこと。

5月のゴールデンウィーク明けには、熊本市国際交流会館も通常業務に戻っていくため、避難所にいた人たちが入るための住居を確保し、家財道具を用意することが当面の課題になるものと思われる。

## 6. 九州キリスト災害支援センター

熊本ハーベストチャーチを災害対策本部とする九州キリスト災害支援センターであるが、ここは震災後一番早く災害支援センターを設立した福音派系教会の熊本教役者会を中心とした超教派の支援団体である。とは言うものの、改革派教会、日本基督教団、在日大韓基督教会は加わっていない。ルーテル教会、バプテスト教会は一部が加入登録。日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン・ジャパン、クラッシュジャパンなどは協力体制をスタートさせた。

実際の活動としては、被災した福音派系教会とその教会員への支援を中心に、そこから更に一般被災者へ広げた物資輸送や片づけ支援という、実際に困っている人を助ける支援ボランティア。ミーティングは、毎日午前8時に、誰がどこに出かけて行くかの連絡(前日夜にスタッフが割り当て調整)をしてそれぞれ出かけて行く。今回は午後7時のミーティングに参加し、そこでは、20人位の人たちから、それぞれの活動報告(その日の奉仕内容および新しい要望を受けた場合はその伝達)を聞くことができた。具体的には、倒壊した建物のゴミの片づけ、家や柵・石垣などの修理、重たい家具の移動など被災者たちが一人ではできない作業の手伝いなど。若い人のボランティアが求められている。募金活動も行っているが、今のところ、どこに、どのように使われているのかミーティングの中だけではよく分からなかった。

## おわりに

最終日、訪問した九州中会議長澤正幸牧師は、2時間以上もの時間を割き、熊本伝道所、大分伝道所、島原教会などの九州中会の諸教会の様子、また、地域に対する教会のあり方について語ってくださった。

まだまだ余震が続く中、倒壊の危険もあるということで県外からのボランティアの受け入れは行われていない。そのことを踏まえるならば、物資輸送や片づけ支援などの被災地ボランティアは、社会福祉協議会などを通じて個々人で手配していくことが望ましいのではないかと大会人権委員会としては考えている。

一方、募金による被災者支援についてであるが、日本キリスト教会における募金の中身は、大会人権委員会からの報告を受けた九州中会と大会常置委員会との間で話し合わせ、決議され、呼びかけられるものと思われる。

大会人権委員会としては、①益城町総合体育館被災者支援に携わることとなる「熊本YMCA災害対策本部」、②「オリーブの会」や「九州臨床宗教者会」の取り組みを支援するために在日大韓基督教会社会委員会が中心となって立ちあげることになるであろう「熊本地震災害対策プロジェクト」、③熊本市国際交流会館に避難してきた外国人被災者ばかりでなく、それ以外の外国人被災者の支援にも当たろうとしている「コムスタカ」などへの支援・連携・協力を行っていくことが、皆の祈りに沿う道であり、支援になると考えている。



熊本市内を流れる白川。  
そこにかかる橋のいくつかが  
使えなくなっているため、  
町の中はひどく渋滞していた。



市内の様々な所に  
落下物がある。  
また、処理しきれないゴミが  
至る所で山積みになっていた。



在日大韓基督教会の先生たちと、  
益城町総合体育館で  
偶然ばったり出会った。

益城町総合体育館の外では、  
支援物資を受け取る人の列が  
できていた。



最も被害が大きかった益城町では、  
約 10,000 の家屋の内、半数が損壊した。

在日大韓基督教会熊本教会  
ここにも黄紙が貼られていた。  
地震以降、「オリーブの家」の  
人たちが寝泊まりしている。



熊本 YMCA [中央 YMCA]  
通常業務のほかに、支援活動に  
取り組むこととなった。

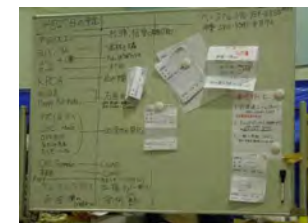


熊本国際交流会館。  
ここでコムスタカの人たちが  
ボランティアをしている。  
大きな被害を受けた熊本城は、  
この建物と目と鼻の先であった。

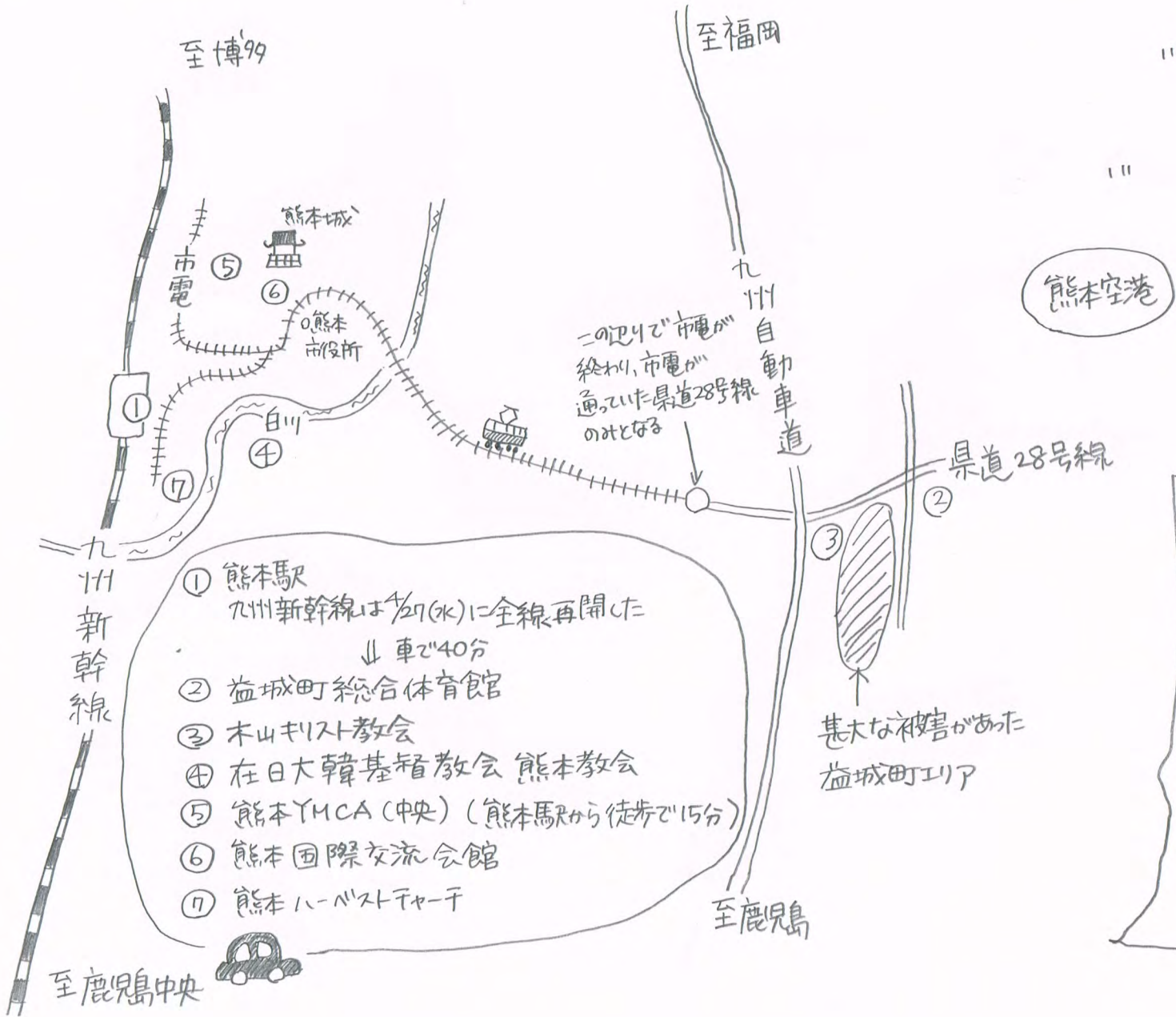


九州キリスト災害支援  
センターの本部がおかれ  
ている熊本ハーベスト・  
チャーチ。

教会内は支援物資で  
いっぱい。  
ホワイトボードには  
その日の行き先が書き  
こまれていた。



# 熊本地震被災地訪問ルート



甚大な被害があった  
南阿蘇村  
エリア

